

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

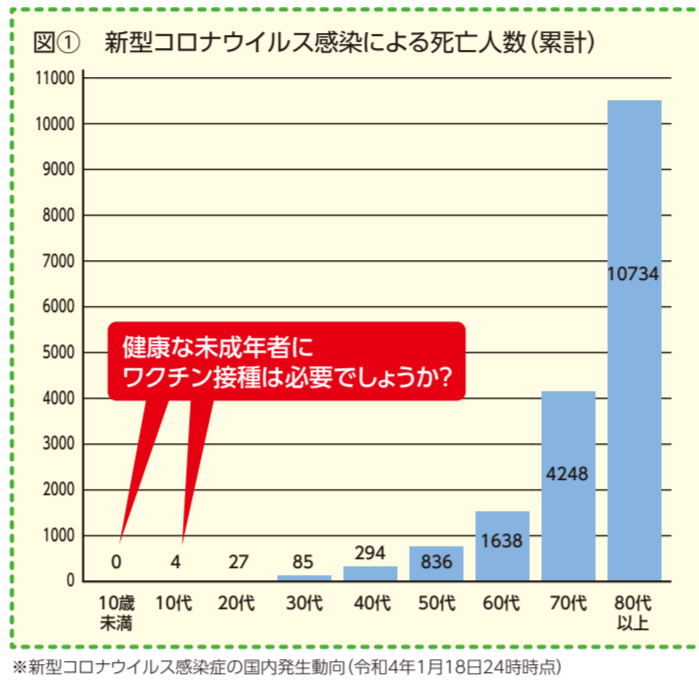
厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか？厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだと（東京都発表）。つまり、これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者は一人もいないし、重症化もほとんどしていない。

これまでオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。

ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを打つことによって、多くの重篤者・命の危険が切迫している患者のことが、や死者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているところを発見された。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1606人にも上り、そのうち**



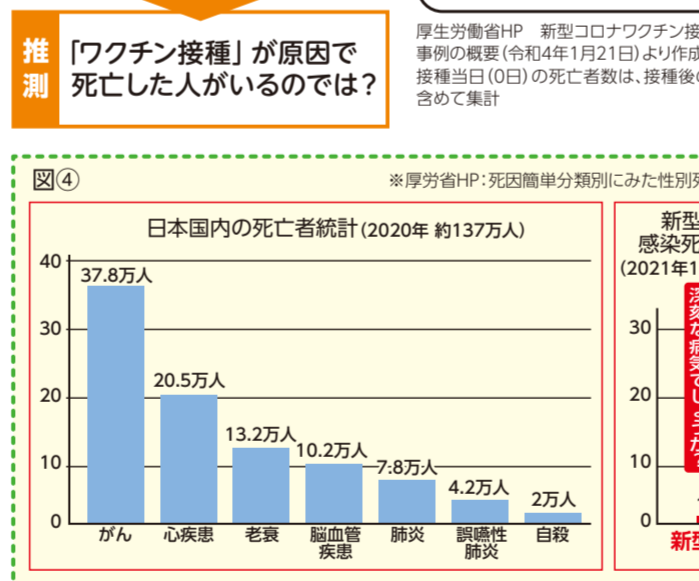
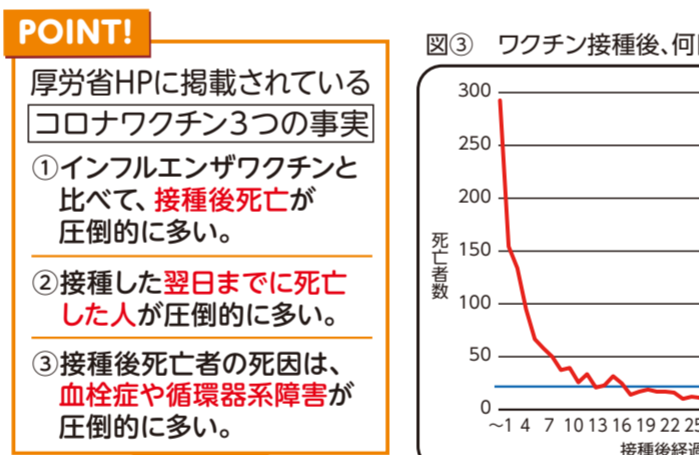
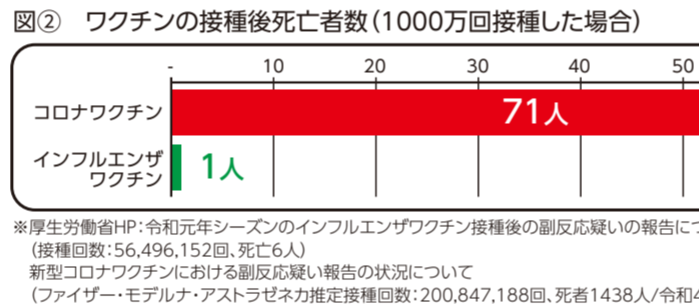
しかしその目的のために、子どもや若者連に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない?

未成年者にとって有害なものはないかと疑問を抱く。大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人、ファイザー製1377人・モデルナ製66人・アストラゼネカ製1人（に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合も含めて厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り**接種が原因で多くの方**

が亡くなったという話がありませんか」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時点で何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、それではなぜコロナワクチン接種後に、またまた大勢の人が死亡するの？（図②）インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだから？（図③）その理由は「**たまたまの死亡**」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、**青線**のように、ある程度なら死亡したその日に何かの病気で死亡したのであれば、毎日の偏りにはまだ明らかになっていない何らかの**有害性**があり、それが原因でこれまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。



接種後に突然亡くなった後遺症が残りたりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか？また「因果関係なし・不明」という発表に納得できるだろうか？そして子どもに接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか？

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません」とと明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉

経した生理が再開したという副反応まで報告されており、日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったり、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

つている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試薬」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも予測できないことを意味する。

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「治験が省略されることなく実施され、一長期的な安全性については特段の不安があるという話はありません」と断言している。ところが事実は違っていて、厚労省は「審議結果報告書」の中で「**接種後長期的な十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。**」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまっただけ、厚労省も今後数年に渡って何が起るかが分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

大阪府立大学名誉教授は「ワクチン接種は始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されるにしたら、これから数年、数十年後のごときである。何らかの異変が確実に卵巣や精巣自体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「**不妊にならない**」との記載は一言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になるといふ科学的な根拠は報告されていません。」と書いてあるだけだ。

最後に想像してほしい。もしあなたの子どもの孫がワクチン接種後に突然亡くなった後遺症が残りたりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか？また「因果関係なし・不明」という発表に納得できるだろうか？そして子どもに接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか？

本当に必要ですか？

子どもへのワクチン

(賛同団体) 岡山・倉敷新型コロナウイルス感染対策市民審議会

「簡単!10分で分かる 新型コロナウイルスの危険性」
井上正康先生講演会動画

特別講座 井上 正康先生

おすすめ最新書籍 (参考文献)

まんがで分かりやすく解説! 「ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4」(扶桑社) 著者:小林 よしのり (2021年11月18日)

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 151,856,225円(2月2日19時30分時点)

ワクチン接種後につらい症状が出た場合は…
すぐに「肺CT画像と血中Dダイマー」を検査し、不幸にも亡くなられた場合は「病理解剖」を依頼しましょう。ワクチン接種と副作用の因果関係は、情報不足で「不明」と処理されることがほとんどですが、「予防接種健康被害救済制度」を適用してもらうために強くお勧めします。

詳しい情報は、こちらからもご覧頂けます▶
<https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見・ご感想をお寄せください mail@dbank.jp

株式会社ゆうネット
新型コロナウイルス関連情報発信センター
代表取締役 堀 猛 (ご意見はメールよりお願いします。)
福岡県福岡市中央区天神4-1-17 2F TEL 092-235-2470

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。